

次世代ブロードバンド技術の利用環境整備に関する研究会

第1回会合 議事要旨

1 日 時 平成18年11月27日(月) 午後2時～午後4時

2 場 所 総務省5階 第4特別会議室

3 出席者

(1) 構成員(五十音順、敬称略)

牛窪 孝、小川 博世、黒川 敏、小池 隆司(代理:若森 和彦)、笹生 剛良、坪川 信(代理:木村 秀明)、中川 正雄、橋本 明、羽鳥 光俊、濱井 龍明、藤原 隆平、堀崎 修宏、松村 友邦、松本 充司(代理:鈴木 敏司)、村尾 憲治(代理:馬淵 孝之)、八嶋 弘幸、山戸 康弘(代理:中道 一徳)、弓削 哲也

(2) 総務省

森総合通信基盤局長、桜井電気通信事業部長、江村高度通信網振興課長、片桐高度通信網推進官、臼田課長補佐

4 議事概要

(1) 開会

(2) 総合通信基盤局長挨拶

(3) 構成員紹介

(4) 研究会の運営方針

資料1-1の開催要綱及び資料1-2の研究会の公開について、事務局より、説明がなされた。

(5) 座長選任

座長には、羽鳥構成員が選出された。

(6) 座長代理の指名

羽鳥座長より、座長代理として中川構成員が指名された。

(7) 議事

① 研究会の進め方

資料1-3の研究会の進め方について、事務局より、説明がなされた。

② ブロードバンドの全国整備に向けた取組

資料1-4のブロードバンドの全国整備に向けた取組について、事務局より、説明がなされた。

③ 次世代ブロードバンド技術の動向

資料 1－5 について中川座長代理より発表、資料 1－6 について八嶋構成員より発表及び資料 1－7 について牛窪構成員より発表が行われ、以下についてやり取りがなされた。

【やり取りの内容】

- ・光無線通信システムの故障率とその改善策についての質問に対し、構成員より、故障率については、10～20 年程度の使用されている実績があり、これまで故障の実例はないとの説明がなされた。なお、発光ダイオードであるレーザは 4 年の連続稼動後で 5 % 程度の機器で出力の若干の低下があったとのデータあるが、近年の技術開発により出力低下の確率は減少してきている旨の説明がなされた。

④ その他

以下についてやり取りがなされた。

【やり取りの内容】

- ・今回発表された次世代ブロードバンド技術に加え、既存のミリ波を用いた無線通信システムとの組み合わせなども視野に入れ、条件不利地域等の地域特性に応じたブロードバンドの利用方策についても議論を行っていただきたいとの意見に対し、事務局より、ご指摘を踏まえて、今後の議論を行いたい旨説明がなされた。
- ・ブロードバンドの定義に関し、本研究会で検討する新たな技術に関するサービスについては、どのようにイメージしているのかとの質問に対し、事務局より、e-Japan 戦略（2001 年）では「音楽データ等をスムーズにダウンロードできる」とブロードバンドの最低基準を定性的に表しており、本研究会では、数ギガレベルでどのようなサービスが考えられるのかということも合わせて、ご議論頂きたい旨説明がなされた。
- ・最後に、次回会合については、1 月 29 日（月）午後とし、詳細は別途連絡することとした。

(8) 閉会

[配付資料]

- 資料 1－1 次世代ブロードバンド技術の利用環境整備に関する研究会 開催要綱
- 資料 1－2 研究会の公開について
- 資料 1－3 研究会の進め方について
- 資料 1－4 ブロードバンドの全国整備に向けた取組
- 資料 1－5 可視光通信
- 資料 1－6 光無線通信システム
- 資料 1－7 光ファイバ技術の最近の技術動向